

令和2年度
印西市民アカデミーだより
 第23号

印西の歴史散策 7

2月9日(火)に予定されていた小林地区の歴史散策は、新型コロナウイルス感染拡大防止の緊急事態宣言の延長を受けて、残念ながら中止させていただきました。そのため、担当一人で散策してきた様子を下記にまとめました。散策コースは、小林公民館→小林鳥見神社→道作古墳群→巴御前板碑→小林八坂神社→光明寺→小林公民館(約4km・2時間)です。

<p>小林鳥見神社 (こばやしとみじんじや)</p>	<p>道作古墳群 (どうさくこふんぐん)</p>
	
<p>下総地方に定住し、開拓した饒速日命を開拓の祖伸として祀ったのが鳥見神社と伝えられています。鳥見神社は中世のころまで常総両台地の間に広がっていた香取の海に面した下総台地上に18社(印西市内)が点在しています。この小林の鳥見神社は、それらの総社といわれています。</p>	<p>この古墳群は、確認されているもので21基(前方後円墳9基、円墳11基、方墳1基)ほどあり、古墳時代後期と呼ばれる6世紀後半から7世紀初頭にかけて造営されたものと推測されます。群中最大の古墳である1号墳は全長45m、高さ4mを測る前方後円墳で周辺から下総型埴輪の破片が出土しました。</p>
<p>巴塚 (ともえづか)</p>	<p>駒形北遺跡</p>
	
<p>木曾義仲の愛妾である巴御前は女武者として活躍し、その後、和田義盛の愛妾となり、義盛が北条氏に敗れたため、小林に隠れ住んだといわれています。</p>	<p>道作古墳群の東側には、古墳時代から奈良・平安時代の集落遺跡があり道作古墳群を造った集団の可能性ががあります。</p>
<p>小林八坂神社</p>	<p>弥陀三尊下総型板碑</p>
	
<p>江戸時代末期の疫病退散の祈禱を行った場所に祀られています。</p>	<p>光明寺の境内の台山にあり、丈110cm、幅48cm、厚さ11cmで、暦応4年(1341)の紀年銘があります。</p>